

基本計画書

基本計画											
事項		記入欄						備考			
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ 設置者		がっこうほしん トウキョウノキョウだいがく 学校法人 東京農業大学									
フリガナ 大学の名称		トウキョウノキョウだいがく 東京農業大学大学院									
大学本部の位置		東京都世田谷区桜丘1丁目1番地1号									
大学の目的		本大学は、その伝統及び私立大学の特性を活かしつつ、教育基本法に則り、生命科学、環境科学、情報科学、生物産業学等を含む広義の農学の理論及び応用を教授し、有能な人材を育成すると共に、前記の学術分野に関する研究及び研究者の養成をなすことを使命とする。									
新設学部等の目的		本専攻博士後期課程では、植物における生理生態学的知見、昆虫における分類学・形態学といった基礎昆虫学的知見、野生動物における生態学や行動学、進化学的知見を修得する。また、薬用資源の栽培・安定供給に関する栽培学・植物生産学的知見、および遺伝的多様性の潜在的価値の評価と活用のための知見を修得する。これら生物資源の先端的見識を有しつつ、論理的思考に基づき文章作成ならびにプレゼンテーションすることができる自立した研究者、または教育者となる人材の育成を教育研究上の目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】農学部 生物資源開発学 科 農学研究科 生物資源開発学 専攻（M）		
	農学研究科	年	人	年次人	人		年 月 第 年次				
	生物資源開発学専攻（D）	3	2	—	6	博士（農学）	令和6年4月	神奈川県厚木市船子1737番地			
	計		2	—	6						
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		研究科の専攻に係る課程の変更届出 農学研究科 デザイン農学専攻（D）（ 2 ）（令和5年4月届出）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計						
		生物資源開発学専攻（D）	7 科目	3 科目	1 科目	11 科目	16 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計			
	新設	農学研究科			人	人	人	人	人	人	
		生物資源開発学専攻（D）			8 (8)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	2 (2)
		デザイン農学専攻（D）			7 (7)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	2 (2)
		計			15 (15)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	21 (21)	0 (0)	— (—)
	既存	農学研究科 農学専攻（D）			10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)
		動物科学専攻（D）			10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)
		応用生物科学研究科 農芸化学専攻（D）			10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		醸造学専攻（D）			8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		食品安全健康学専攻（D）			11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		食品栄養学専攻（D）			9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	5 (5)	0 (0)
		生命科学研究科 バイオサイエンス専攻（D）			9 (9)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)
		分子生命化学専攻（D）			6 (6)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
		分子微生物学専攻（D）			6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
地域環境科学研究科 林学専攻（D）			8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)		

教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	農業工学専攻 (D)		9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
		造園学専攻 (D)		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
		地域創成科学専攻 (D)		8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
		国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 (D)		9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	
		農業経済学専攻 (D)		10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	
		国際アグリビジネス学専攻 (D)		7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	
		国際食農科学専攻 (D)		6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	
		生物産業学研究科 生物産業学専攻 (D)		29 (29)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	37 (37)	0 (0)	1 (1)	
		計		172 (172)	73 (73)	0 (0)	2 (2)	247 (247)	5 (5)	- (-)	
		合 計		187 (187)	75 (75)	0 (0)	6 (6)	268 (268)	5 (5)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		147 人 (147)		11 人 (11)		158 人 (158)				
	技 術 職 員		19 (19)		7 (7)		26 (26)				
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)		1 (1)		6 (6)				
	そ の 他 の 職 員		1 (1)		9 (9)		10 (10)				
	計		172 (172)		28 (28)		200 (200)				
校 地 等	区 分		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		東京農業大学第一 高等学校(収容定 員975人、面積基 準 運動場8,400 ㎡)、中等部(収容 定員525人、面積 基準 運動場6,450 ㎡)と共用 借用面積： 3,570.24㎡ 借用期間：60年	
	校 舎 敷 地		354,079.78㎡	0㎡		15,350.76㎡		369,430.54㎡			
	運 動 場 用 地		31,147.98㎡	30,935.81㎡		6,453.99㎡		68,537.78㎡			
	小 計		385,227.76㎡	30,935.81㎡		21,804.75㎡		437,968.32㎡			
	そ の 他		2,571,540.56㎡	0㎡		0㎡		2,571,540.56㎡			
	合 計		2,956,768.32㎡	30,935.81㎡		21,804.75㎡		3,009,508.88㎡			
校 舎			専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
			218,597.43㎡ (218,597.43㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		218,597.43㎡ (218,597.43㎡)			
教室等	講義室		演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	101室		82室	707室		8室 (補助職員 0人)		1室 (補助職員 0人)			
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数		申請専攻全体		
			生物資源開発学専攻 (D)				15 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	○大学全体での共用 分図書316,643冊 〔33,391〕 ○学術雑誌・視聴覚 資料は大学全体の数 ○標本 学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数	
	生物資源開発学専攻		262,353〔46,426 〕 (252,948〔45,349〕)	9,170〔7,566〕 (9,170〔7,566〕)		7,643〔7,430〕 (7,643〔7,430〕)	7,789 (7,659)	725 (725)	33,778 (33,778)		
	計		262,353〔46,426 〕 (252,948〔45,349〕)	9,170〔7,566〕 (9,170〔7,566〕)		7,643〔7,430〕 (7,643〔7,430〕)	7,789 (7,659)	725 (725)	33,778 (33,778)		
図 書 館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
			8,026.19㎡		1,383		1,162,000				
体 育 館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
			10,371.27㎡		野 球 場 2 面 テ ニ ス コ ー ト 4 面						
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経費の見積り の 維 持 の 概 要	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等			387千円	387千円	387千円				
		共同研究費等			5,052千円	5,052千円	5,052千円				
		図 書 購 入 費		370千円	386千円	411千円	435千円				
		設 備 購 入 費		5,468千円	3,283千円	3,488千円	3,693千円				
		学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
				1,580.6千円	1,340.6千円	1,390.6千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金収入、寄付金収入、手数料収入 等							

	大 学 の 名 称	東 京 農 業 大 学 大 学 院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	農学研究科	年	人	年次 人	人				
	博士前期課程						1.33		
	農学専攻	2	14	—	28	修士（農学）	0.75	昭和28年度	神奈川県厚木市船子1737
	動物科学専攻	2	12	—	24	修士（農学）	1.62	昭和61年度	同上
	生物資源開発学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	1.85	令和4年度	同上
	デザイン農学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.12	令和4年度	同上
	バイオセラピー学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成22年度	同上
	博士後期課程						0.47		
	農学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.33	昭和37年度	同上
	動物科学専攻	3	4	—	12	博士（農学）	0.75	平成2年度	同上
	バイオセラピー学専攻	3	3	—	9	博士（農学）	0.55	平成24年度	同上
	応用生物科学研究科								
	博士前期課程						1.04		
	農芸化学専攻	2	30	—	60	修士（農学）	1.01	令和2年度	東京都世田谷区桜丘1-1-1
	醸造学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.32	令和2年度	同上
	食品安全健康学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	0.95	令和2年度	同上
	食品栄養学専攻	2	6	—	12	修士（農学）	0.91	令和2年度	同上
	博士後期課程						0.50		
	農芸化学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.20	令和2年度	同上
	醸造学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.50	令和2年度	同上
	食品安全健康学専攻	3	3	—	9	博士（農学）	0.66	令和2年度	同上
	食品栄養学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.66	令和2年度	同上
	生命科学研究所								
	博士前期課程						1.59		
	バイオサイエンス専攻	2	30	—	60	修士（農学）	1.36	令和3年度	同上
	分子生命化学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.85	令和3年度	同上
	分子微生物学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.57	令和3年度	同上
	博士後期課程						0.64		
	バイオサイエンス専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.33	令和3年度	同上
	分子生命化学専攻	3	5	—	5	博士（農学）	1.00	令和5年度	同上
	分子微生物学専攻	3	5	—	5	博士（農学）	0.60	令和5年度	同上
	地域環境科学研究科								
	博士前期課程						1.31		
	林学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.18	令和3年度	同上
	農業工学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.50	令和3年度	同上
	造園学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	1.15	令和3年度	同上
	地域創成科学専攻	2	6	—	12	修士（農学）	1.41	令和3年度	同上
	博士後期課程						0.83		
	林学専攻	3	8	—	24	博士（農学）	0.66	令和3年度	同上
	農業工学専攻	3	8	—	24	博士（農学）	1.50	令和3年度	同上
	造園学専攻	3	10	—	30	博士（農学）	0.66	令和3年度	同上
	地域創成科学専攻	3	2	—	2	博士（農学）	0.50	令和5年度	同上
	国際食料農業科学研究科								
	博士前期課程						0.89		
	国際農業開発学専攻	2	18	—	36	修士（農学）	1.08	令和3年度	同上
	農業経済学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	0.68	令和3年度	同上
	国際アグリビジネス学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	0.80	令和3年度	同上
	国際食農科学専攻	2	7	—	14	修士（農学）	1.00	令和3年度	同上
	博士後期課程						1.29		
	国際農業開発学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	2.83	令和3年度	同上
	農業経済学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.50	令和3年度	同上
	国際アグリビジネス学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	1.33	令和3年度	同上
	国際食農科学専攻	3	2	—	2	博士（農学）	0.50	令和5年度	同上

令和4年4月学生募集停止

令和3年4月名称変更

既設大学等の状況	生物産業学研究科 博士前期課程						0.93			
	北方圏農学専攻	2	7	—	14	修士（農学）	0.71	平成22年度	北海道網走市八坂196	令和4年4月名称変更
	海洋水産学専攻	2	5	—	10	修士（農学）	1.10	平成22年度	同上	令和4年4月名称変更
	食香粧化学専攻	2	5	—	10	修士（農学）	1.60	平成22年度	同上	令和4年4月名称変更
	自然資源経営学専攻	2	3	—	6	修士（経営学）	0.33	平成22年度	同上	令和4年4月名称変更
	博士後期課程									
	生物産業学専攻	3	8	—	24	博士（農学又は経営学）	0.20	平成7年度	同上	
	大 学 の 名 称	東 京 農 業 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
		年	人	年次人	人		倍			
	農学部						1.06			
	農学科	4	170	—	680	学士（農学）	1.06	昭和24年度	神奈川県厚木市船子1737	
	動物科学科	4	140	—	560	学士（農学）	1.04	昭和24年度	同上	
	生物資源開発学科	4	125	—	500	学士（農学）	1.09	平成30年度	同上	
	デザイン農学科	4	123	—	492	学士（農学）	1.05	平成30年度	同上	
	応用生物科学部						1.06			
	農芸化学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.06	平成10年度	東京都世田谷区桜丘1－1－1	
	醸造科学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.09	平成10年度	同上	
	食品安全健康学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.05	平成26年度	同上	
	栄養科学科	4	120	—	480	学士（農学）	1.05	平成10年度	同上	
	生命科学部						1.05			
	バイオサイエンス学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.08	平成29年度	同上	
	分子生命化学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.03	平成29年度	同上	
	分子微生物学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.05	平成29年度	同上	
	地域環境科学部						1.07			
	森林総合科学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.07	平成10年度	同上	
	生産環境工学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.04	平成10年度	同上	
	造園科学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.08	平成10年度	同上	
	地域創成科学科	4	100	—	400	学士（農学）	1.09	平成29年度	同上	
	国際食料情報学部						1.06			
	国際農業開発学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.09	平成10年度	同上	
	食料環境経済学科	4	190	—	760	学士（農学）	1.05	平成10年度	同上	
	アグリビジネス学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.07	平成10年度	同上	令和5年4月名称変更
	国際食農科学科	4	110	—	440	学士（農学）	1.05	平成29年度	同上	
	生物産業学部						1.00			
	北方圏農学科	4	91	—	364	学士（農学）	1.00	平成元年度	北海道網走市八坂196	
	海洋水産学科	4	91	—	364	学士（農学）	1.05	平成18年度	同上	
	食香粧化学科	4	91	—	364	学士（農学）	0.95	平成元年度	同上	
	自然資源経営学科	4	90	—	360	学士（経営学）	1.00	平成元年度	同上	
	大 学 の 名 称	東 京 情 報 大 学 大 学 院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
		年	人	年次人	人		倍			
	総合情報学研究科 博士前期課程									
	総合情報学専攻	2	15	—	30	修士（総合情報学）	0.80	平成4年度	千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地	
	総合情報学研究科 博士後期課程									
	総合情報学専攻	3	3	—	9	博士（総合情報学）	0.22	平成11年度	同上	

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	東 京 情 報 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所 在 地
	総合情報学部	年	人	年次人	人		倍			
	総合情報学科	4	400	3年次10	1,620	学士（総合情報学）	1.13	平成25年度		千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地
	看護学部	4	100	—	400	学士（看護学）	0.79	平成29年度	同上	
附属施設の概要		名称	目的				設置年月			
		1 図書館 （東京都世田谷区桜丘1-1-1）	学生の学習・研究活動の支援施設				平成26年4月			
		農学部図書館 （神奈川県厚木市船子1737）	学生の学習・研究活動の支援施設				平成10年4月			
		生物産業学部図書館 （北海道網走市八坂196）	学生の学習・研究活動の支援施設				平成元年4月			
		2 農学部の附属施設								
		伊勢原農場 （神奈川県伊勢原市三ノ宮前畑1499-1 他（79,910,22㎡）	作物・園芸・環境緑化等の研究・実習				平成24年4月			
		富士農場 （静岡県富士宮市麓422）	畜産実習を中心とした実習教育				昭和17年			
		植物園 （神奈川県厚木市船子1737）	有用植物の収集・保存・展示				昭和22年			
		生き物連携センター （神奈川県厚木市船子1737）	人と動植物のかかわりを追求する教育・研究				平成19年4月			
		電子顕微鏡室 （神奈川県厚木市船子1737）	ウイルス・微生物等の微細構造解析				平成10年4月			
		3 応用生物科学部の附属施設								
		食品加工技術センター （東京都世田谷区桜丘1-1-1）	食品加工に関する実践的教育・研究				平成10年4月			
4 生命科学部の付属施設										
高次生命機能解析センター （東京都世田谷区桜丘1-1-1）	遺伝子組換え、栄養、生理、遺伝、発生など生命科学分野の研究				平成21年4月					
5 地域環境科学部の附属施設										
奥多摩演習林 （東京都西多摩郡奥多摩町氷川2137（653,016.00㎡）	森林のしくみ、育成方法、林業機械の実習等				昭和53年					
6 国際食料情報学部の附属施設										
宮古亜熱帯農場 （沖縄県宮古島市城辺字福里72-2）（98,262.00㎡）	熱帯農業の実習教育・試験研究				昭和63年					
7 生物産業学部の附属施設										
網走寒冷地農場 （北海道網走市音根内59-8）（432,174.00㎡）	寒冷地大規模農場の実習教育				昭和57年					
オホーツク臨海研究センター （北海道網走市能取港町1-1-2）（4,656.60㎡）	海洋動植物の生態・生育・繁殖に関する研究				平成18年4月					
8 総合研究所 （東京都世田谷区桜丘1-1-1）	全学的な研究戦略の推進・実践				平成12年4月					
9 グローバル連携センター （東京都世田谷区桜丘1-1-1）	海外研究機関との交流ならびに協力連携				平成18年4月					
10 「食と農」の博物館 （東京都世田谷区上用賀2-4-28）	教育・研究の成果を広く社会に公開				平成16年4月					

（注）

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(農学研究科 生物資源開発学専攻 博士後期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
農学研究科 共通科目	知的財産管理法・研究倫理特論	1前		1		○								兼2	集中	
	インターンシップ	2前		2				○	8			1			集中	
	小計 (2科目)	－	0	3	0	－			8	0	0	1	0	兼2		
専攻科目	基礎科目	英語論文作成法	1後	2		○			8			1				
		小計 (1科目)	－	2	0	0	－			8	0	0	1	0	兼0	
	特論科目	植物多様性学後期特論	1前		2		○			2						オムニバス
		野生動物学後期特論	1前		2		○			2						オムニバス
		昆虫学後期特論	1前		2		○			2						オムニバス
		薬用資源学後期特論	1前		2		○			1						
		遺伝資源利用学後期特論	1前		2		○			1						
		小計 (5科目)	－	0	10	0	－			8	0	0	0	0	兼0	
研究指導科目	特別研究指導Ⅰ	1通	4				○		8							
	特別研究指導Ⅱ	2通	4				○		8							
	特別研究指導Ⅲ	3通	4				○		8							
	小計 (3科目)	－	12	0	0	－			8	0	0	0	0	兼0		
合計 (11科目)		－	14	13	0	－			8	0	0	1	0	兼2		
学位又は称号		博士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
【修了要件】 3年以上在学し、所定の授業科目について16単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目14単位、選択必修科目2単位 (特論科目の中から主たる研究領域を選択) の合計16単位以上を修得すること。								1 学年の学期区分				2 期				
								1 学期の授業期間				1 5 週				
								1 時限の授業時間				9 0 分				

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
（農学研究科 生物資源開発学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
農学研究科 共通科目	知的財産管理法・研究倫理特論	近年、農学分野の技術やブランドを知的財産として認め、これを保護して活用することで新しい評価を創造していこうとする機運が高まっている。しかしながら、知的財産に関する法律は複雑で、独学での習得は困難である。そこで農林水産分野の知的財産管理の専門家が、事例を交えながら解説し、知的財産管理の理解に役立たせるとともに、研究倫理についてコンプライアンスを含め様々な視点から理解し、様々な研究分野での注意点を例示しながら、研究者としての倫理観を涵養することを目的とする。	集中
	インターンシップ	本科目は、学生の将来のキャリア・プランに関連して、一定期間を企業などで就業体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。実際の職場において就業体験を積むことにより、自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。	集中
専攻科目	基礎科目 英語論文作成法	研究の成果を国際的に発信することは、研究者として最も大切なことである。そのためには、英語による論文を作成し、国際的な学術雑誌に掲載することが必要となる。そのために本科目は、担当教員の指導課題に沿った研究を通して得られた成果をもとに、英語論文を作成する能力を身につけることを目指す。	
	特論科目 植物多様性学後期特論	（概要） 人と自然が共生する社会を構築するために、自然環境を的確に読み取り、自然の保全・保護と持続的な利用を進めて行かなければならない。そのためには、自然環境における植物の多様性とその役割を理解したうえで、植物資源を有効適正に利用する必要がある。本講義では、植物群落構造や植物の成長量、植物が成長するための無機・有機物の循環、植物とその他の生物との相互作用に関する理論と解析手法を学ぶ。これらの知識により、多様な生物が相互に関係する調和のとれた自然環境の創出、管理、保全に関する研究の発展的かつ国際的視点を構築する。 （オムニバス方式／全15回：単位認定者：7 山田 晋） （6 三井 裕樹／7回） 分子生物学、生理生態学的手法を用いて、植物の種および遺伝的多様性、形態、機能、植物と他の生物との相互作用を解析するための理論と実践法を教授する。 （7 山田 晋／8回） 植物生態学、植物社会学、植生学、復元生態学等の理論と実践例に基づき、野外植物群落の構造や多様性、植生の管理、復元に関する知識と手法を教授する。	オムニバス方式
	野生動物学後期特論	（概要） 野生動物の多様性を進化的歴史および現在の地球規模での生態的多様性から理解することで、その資源的価値と保全管理することの重要性について国際的・先端的内容をとり上げる。本講義を履修することで野生動物学の体系に則った論理的思考ができるようになる。 （オムニバス方式／全15回：単位認定者：3 佐々木 剛） （3 佐々木 剛／8回） 野生動物が自然状態で形成する集団の構造解明に関する知識を集団遺伝学的知見を元に教授し、その解析方法を講義する。加えて、集団分化から種分化がおこり、やがて進化へと通じる動物の多様化のメカニズムについて進化生物学的観点から講義する。 （5 松林 尚志／7回） 生物多様性は生物間ネットワークによって維持されている。生物多様性の維持機構について、群集生態学的観点から講義する。	オムニバス方式

専攻科目	特論科目	昆虫学後期特論	(概要) 多様な昆虫類は特に農業と深いかわりをもっている。古くから農業害虫として知られる種も多く、その制御は生産性の向上に欠かせない。その反面、有用昆虫も多く知られ、天敵やバイオミキリーとして利用される場合も少なくない。本科目は、研究者や技術者を目指す院生を対象として行う専門教育で、応用分野のみならず基礎分野をも含めて、幅広く教授する。特に、基礎昆虫学の知識を教授した上で、農業上有害な昆虫の防除、有益な昆虫の利用、あるいは分類や生理・生態、分布といった生物本来の基本的課題に取り組むための知識をグローバルな視点から習得することを目的とする。これにより、昆虫学の基礎分野と応用分野について国際的で具体的な問題を取り上げ、それを解決するための方策を考え、提案することができる。 (オムニバス方式／全15回：単位認定者：2 小島 弘昭) (1 石川 忠／7回) 種多様性に富む昆虫類には、多くのグループが含まれ、それゆえ形態的な多様性がとても高い。昆虫類に含まれるすべての目を対象に、分類学および形態学の最先端の理論と実践を、実例を多く交えて教授する。 (2 小島 弘昭／8回) 昆虫類は、長期にわたる種分化の歴史をもち、現在見られる種多様性に至った。これを念頭に置いて、多様な生態と農業上有害な昆虫の防除や有益な昆虫の利用を含む昆虫生態学、および分布データ活用法や生物系統学を発展させた系統生物地理学について国際的にも通用できるよう教授する。	オムニバス方式
		薬用資源学後期特論	薬用植物の栽培化は医薬品の原料となる生薬の安定確保に不可欠である。しかし、その栽培化には一般農産物とは異なる規格に応じた成育目標を有する。本科目では医薬品としての生薬の本質と、生薬の安定確保に係る薬用植物の栽培について生薬学・栽培学および植物生理生態学の観点から考究し、自ら成育目標を立て、増産に貢献できる能力を体得する。具体的には、薬用植物の生理生態的特性と栽培環境特性を複合した薬用植物の栽培理論の先端的知識を身につける。また、新たに栽培化を目指す薬用植物の成育目標を立案のための先端的実践法を身につける。さらに、生薬の機能性に着目した多面的活用に関する先端的知識を身につける。	
		遺伝資源利用学後期特論	遺伝資源のもつ遺伝的多様性の顕在的および潜在的価値を認識し、国内外の植物在来品種における遺伝的多様性の評価と活用に関する知識と手法を実例とともに教授する。さらに、遺伝資源を保全・管理していくことの重要性と展望、遺伝資源の活用が人間生活にもたらす有用性と新規性、国外における遺伝資源の探索・収集の取組みと国内への導入に関わる法規並びに実質的な手続きの必要性和意義について実情を踏まえて講義する。本講義を履修することで、遺伝資源を取り巻く様々な現状を体系的に理解し、将来に向けての遺伝資源利活用の展望を考察することができるようになる。	

研究科目	特別研究指導 I	(概要) 本専攻博士後期課程では、生物資源開発学に関わる最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通して、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成することを目的としている。そこで特別指導研究 I では、研究課題を設定し、研究計画を立案する。さらに研究課題を遂行するのに必要な生命科学の最先端知識・技術を修得する事を到達目標とする。 各担当教員の指導課題は次の通りである。 (1 石川 忠 (指導教員)) (昆虫学) 昆虫類のうち半翅目を主とした不完全変態類を中心に、分類学・形態学上の問題を解決する。とくに、解剖技術、形質評価、同定法、命名法、分子系統解析を修得させることによって、昆虫類の種多様性を解明することを目指す。 (2 小島 弘昭 (指導教員)) (昆虫学) 昆虫類のうち鞘翅目を主とした完全変態類を中心に、比較形態学・系統生物地理学上の問題を解決する。とくに、系統分類、種分化、分布形成、寄主選択などの理論と実践を修得させることによって、応用昆虫体系学の確立へ向けた諸問題の解明を目指す。 (3 佐々木 剛 (指導教員)) (野生動物学) 多様な脊椎動物を題材に多様性を獲得するに至った歴史的背景および遺伝的要因の解明を分子レベルで明らかにすることを目指す。野生動物は集団内に遺伝的変異を維持しながら集団を形成し、環境変動や分布拡大によって集団が分化 (種分化) することで進化を遂げた。このプロセスにおける系統分化の歴史を中立的な分子進化を指標とした解析で明らかにするとともに、機能的遺伝子の多様性を明らかにすることで環境への適応の要因を探る。さらに機能的形態の発生遺伝学的解析からその出現に至った分子メカニズムを探り、生物多様化の遺伝的要因を明らかにする。 (4 松嶋 賢一 (指導教員)) (薬用資源学) 生薬の安定供給や伝統医療に有用な植物の発見・開発に寄与するため、さまざまな薬用植物の栽培・育成管理法の確立、有用系統の選抜、各種の生理生態学的特徴の解明などを行う。また、生薬の機能性の多面的活用に関する研究も遂行する。 (5 松林 尚志 (指導教員)) (野生動物学) 国内外の野生動物の生息環境で起きている諸問題を俯瞰し、とくに生態学視点から問題の発生原因の共通性や固有性を抽出し、その解決策を探る。 (6 三井 裕樹 (指導教員)) (植物多様性学) 植物の形態形成、環境応答のメカニズム解明に関する研究を行い、有用な農業形質を制御する技術開発への応用を目指す。本科目では、植物の形態形成や機能性に関する最新の研究事例を論文や書籍を用いて理解し、生理生態学的・分子生物学的研究手法、データ解析について実践的に学ぶ。 (7 山田 晋 (指導教員)) (植物多様性学) 二次的自然の保全や復元に関する世界の動向を、国際的論文を網羅的に読み込むことによって把握し、現状の問題点を探る。野外生物データの分析・解析方法を学ぶ。以上から、植物の有する生態的機能や種の保全に関する新知見を得る。 (8 和久井 健司 (指導教員)) (遺伝資源利用学) 植物遺伝資源の評価および利活用に関わる国内外の文献を熟読し、その内容をエッセンスと捉えて取り纏めるとともに、研究手法として、機器を用いた解析法、計測データを用いた解析法などについて原理や手法を学び、実践的かつ実働的に技術の習得を目指す。本科目を履修することにより、遺伝資源利用に関わる種々の課題を認識し、それらに対する実質的な解決に向けての手法を選択することができ、能動的な取組みができるようになる。	
------	----------	---	--

研究 科 目	特別研究指導Ⅱ	(概要) 本専攻博士後期課程では、生物資源開発学に関わる最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通して、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成することを目的としている。そこで特別指導研究Ⅱでは、特別指導研究Ⅰの成果を基に創造的・独創的な教育研究を推進する。研究成果を国内外に発信する準備を到達目標とする。 各担当教員の指導課題は次の通りである。 (1 石川 忠(指導教員))(昆虫学) 昆虫類のうち半翅目を主とした不完全変態類を中心に、分類学・形態学上の問題を解決する。とくに、解剖技術、形質評価、同定法、命名法、分子系統解析を修得させることによって、昆虫類の種多様性を解明することを目指す。 (2 小島 弘昭(指導教員))(昆虫学) 昆虫類のうち鞘翅目を主とした完全変態類を中心に、比較形態学・系統生物地理学上の問題を解決する。とくに、系統分類、種分化、分布形成、寄主選択などの理論と実践を修得させることによって、応用昆虫体系学の確立へ向けた諸問題の解明を目指す。 (3 佐々木 剛(指導教員))(野生動物学) 多様な脊椎動物を題材に多様性を獲得するに至った歴史的背景および遺伝的要因の解明を分子レベルで明らかにすることを目指す。野生動物は集団内に遺伝的変異を維持しながら集団を形成し、環境変動や分布拡大によって集団が分化(種分化)することで進化を遂げた。このプロセスにおける系統分化の歴史を中立的な分子進化を指標とした解析で明らかにするとともに、機能的遺伝子の多様性を明らかにすることで環境への適応の要因を探る。さらに機能的形態の発生遺伝学的解析からその出現に至った分子メカニズムを探り、生物多様化の遺伝的要因を明らかにする。 (4 松嶋 賢一(指導教員))(薬用資源学) 生薬の安定供給や伝統医療に有用な植物の発見・開発に寄与するため、さまざまな薬用植物の栽培・育成管理法の確立、有用系統の選抜、各種の生理生態学的特徴の解明などを行う。また、生薬の機能性の多面的活用に関する研究も遂行する。 (5 松林 尚志(指導教員))(野生動物学) 国内外の野生動物の生息環境で起きている諸問題を俯瞰し、とくに生態学視点から問題の発生原因の共通性や固有性を抽出し、その解決策を探る。 (6 三井 裕樹(指導教員))(植物多様性学) 植物の形態形成、環境応答のメカニズム解明に関する研究を行い、有用な農業形質を制御する技術開発への応用を目指す。本科目では、植物の形態形成や機能性に関する最新の研究事例を論文や書籍を用いて理解し、生理生態学的・分子生物学的研究手法、データ解析について実践的に学ぶ。 (7 山田 晋(指導教員))(植物多様性学) 二次的自然の保全や復元に関する世界の動向を、国際的論文を網羅的に読み込むことによって把握し、現状の問題点を探る。野外生物データの分析・解析方法を学ぶ。以上から、植物の有する生態的機能や種の保全に関する新知見を得る。 (8 和久井 健司(指導教員))(遺伝資源利用学) 植物遺伝資源の評価および利活用に関わる国内外の文献を熟読し、その内容を他の文献と関連付けて取り纏めるとともに、研究手法として、機器を用いた解析法、計測データを用いた解析法などについて原理や手法を学び、実データの取得に基づく実践的な技術の習得を目指す。本科目を履修することにより、遺伝資源利用に関わる種々の課題を認識し、それらに対する実質的な解決に向けての手法を選択することができ、計画的な取組みができるようになる。	
--------------	---------	---	--

研究 科 目	特別研究指導Ⅲ	(概要) 本専攻博士後期課程では、生物資源開発学に関わる最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通して、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成することを目的としている。そこで特別指導研究Ⅲでは、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成するために、国際誌への掲載及び、博士論文の完成を到達目標とする。 各担当教員の指導課題は次の通りである。 (1 石川 忠(指導教員))(昆虫学) 昆虫類のうち半翅目を主とした不完全変態類を中心に、分類学・形態学上の問題を解決する。とくに、解剖技術、形質評価、同定法、命名法、分子系統解析を修得させることによって、昆虫類の種多様性を解明することを目指す。 (2 小島 弘昭(指導教員))(昆虫学) 昆虫類のうち鞘翅目を主とした完全変態類を中心に、比較形態学・系統生物地理学上の問題を解決する。とくに、系統分類、種分化、分布形成、寄主選択などの理論と実践を修得させることによって、応用昆虫体系学の確立へ向けた諸問題の解明を目指す。 (3 佐々木 剛(指導教員))(野生動物学) 多様な脊椎動物を題材に多様性を獲得するに至った歴史的背景および遺伝的要因の解明を分子レベルで明らかにすることを目指す。野生動物は集団内に遺伝的変異を維持しながら集団を形成し、環境変動や分布拡大によって集団が分化(種分化)することで進化を遂げた。このプロセスにおける系統分化の歴史を中立的な分子進化を指標とした解析で明らかにするとともに、機能的遺伝子の多様性を明らかにすることで環境への適応の要因を探る。さらに機能的形態の発生遺伝学的解析からその出現に至った分子メカニズムを探り、生物多様性の遺伝的要因を明らかにする。 (4 松嶋 賢一(指導教員))(薬用資源学) 生薬の安定供給や伝統医療に有用な植物の発見・開発に寄与するため、さまざまな薬用植物の栽培・育成管理法の確立、有用系統の選抜、各種の生理生態学的特徴の解明などを行う。また、生薬の機能性の多面的活用に関する研究も遂行する。 (5 松林 尚志(指導教員))(野生動物学) 国内外の野生動物の生息環境で起きている諸問題を俯瞰し、とくに生態学視点から問題の発生原因の共通性や固有性を抽出し、その解決策を探る。 (6 三井 裕樹(指導教員))(植物多様性学) 植物の形態形成、環境応答のメカニズム解明に関する研究を行い、有用な農業形質を制御する技術開発への応用を目指す。本科目では、植物の形態形成や機能性に関する最新の研究事例を論文や書籍を用いて理解し、生理生態学的・分子生物学的研究手法、データ解析について実践的に学ぶ。 (7 山田 晋(指導教員))(植物多様性学) 二次的自然の保全や復元に関する世界の動向を、国際的論文を網羅的に読み込むことによって把握し、現状の問題点を探る。野外生物データの分析・解析方法を学ぶ。以上から、植物の有する生態的機能や種の保全に関する新知見を得る。 (8 和久井 健司(指導教員))(遺伝資源利用学) 植物遺伝資源の評価および利活用に関わる国内外の文献を熟読し、関連した研究内容を体系的に取り纏めるとともに、研究手法として、機器を用いた解析法、計測データを用いた解析法などについて実データを用いたより実践的な技術の習得を目指す。本科目を履修することにより、遺伝資源利用に関わる種々の課題を本質的に認識し、それらに対する実質的な解決に向けての手法を選択し、計画的かつ発展的な取り組みができるようになる。	
--------------	---------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

東京農業大学
法学校
設置認可等に関する組織の移行表

令和5年度	令和6年度	変更の事由
入学 定員	編入学 定員	収容 定員
東京農業大学大学院 農学研究科	東京農業大学大学院 農学研究科	
農学専攻(M)	農学専攻(M)	
動物科学専攻(M)	動物科学専攻(M)	
生物資源開発学専攻(M)	生物資源開発学専攻(M)	
デザイン農学専攻(M)	デザイン農学専攻(M)	
農学専攻(D)	農学専攻(D)	
動物科学専攻(D)	動物科学専攻(D)	
バイオセラピー学専攻(D)		
応用生物科学研究科	応用生物科学研究科	
農芸化学専攻(M)	農芸化学専攻(M)	
醸造学専攻(M)	醸造学専攻(M)	
食品安全健康学専攻(M)	食品安全健康学専攻(M)	
食品栄養学専攻(M)	食品栄養学専攻(M)	
農芸化学専攻(D)	農芸化学専攻(D)	
醸造学専攻(D)	醸造学専攻(D)	
食品安全健康学専攻(D)	食品安全健康学専攻(D)	
食品栄養学専攻(D)	食品栄養学専攻(D)	
生命科学研究所	生命科学研究所	
バイオサイエンス専攻(M)	バイオサイエンス専攻(M)	
分子生命化学専攻(M)	分子生命化学専攻(M)	
分子微生物学専攻(M)	分子微生物学専攻(M)	
バイオサイエンス専攻(D)	バイオサイエンス専攻(D)	
分子生命化学専攻(D)	分子生命化学専攻(D)	
分子微生物学専攻(D)	分子微生物学専攻(D)	
地域環境科学研究科	地域環境科学研究科	
林学専攻(M)	林学専攻(M)	
農業工学専攻(M)	農業工学専攻(M)	
造園学専攻(M)	造園学専攻(M)	
地域創成科学専攻(M)	地域創成科学専攻(M)	
林学専攻(D)	林学専攻(D)	
農業工学専攻(D)	農業工学専攻(D)	
造園学専攻(D)	造園学専攻(D)	
地域創成科学専攻(D)	地域創成科学専攻(D)	
14	14	28
12	12	24
10	10	20
8	8	16
5	5	15
4	4	12
3	3	9
30	30	60
20	20	40
20	20	40
6	6	12
5	5	15
2	2	6
3	3	9
2	2	6
30	30	60
20	20	40
20	20	40
5	5	15
3	3	9
3	3	9
8	8	16
8	8	16
10	10	20
6	6	12
2	2	6
2	2	6
2	2	6
2	2	6

国際食料農業科学研究科			
国際農業開発学専攻(M)	18	—	36
農業経済学専攻(M)	8	—	16
国際アグリビジネス学専攻(M)	10	—	20
国際食農科学専攻(M)	7	—	14
国際農業開発学専攻(D)	2	—	6
農業経済学専攻(D)	2	—	6
国際アグリビジネス学専攻(D)	2	—	6
国際食農科学専攻(D)	2	—	6
生物産業学研究科			
北方圏農学専攻(M)	7	—	14
海洋水産学専攻(M)	5	—	10
食香粧化学専攻(M)	5	—	10
自然資源経営学専攻(M)	3	—	6
生物産業学専攻(D)	8	—	24
計	344		747

国際食料農業科学研究科			
国際農業開発学専攻(M)	18	—	36
農業経済学専攻(M)	8	—	16
国際アグリビジネス学専攻(M)	10	—	20
国際食農科学専攻(M)	7	—	14
国際農業開発学専攻(D)	2	—	6
農業経済学専攻(D)	2	—	6
国際アグリビジネス学専攻(D)	2	—	6
国際食農科学専攻(D)	2	—	6
生物産業学研究科			
北方圏農学専攻(M)	7	—	14
海洋水産学専攻(M)	5	—	10
食香粧化学専攻(M)	5	—	10
自然資源経営学専攻(M)	3	—	6
生物産業学専攻(D)	8	—	24
計	345		750

東京農業大学			
農学部			
農学科	170	3年次	680
動物科学科	140	—	560
生物資源開発学科	125	—	500
デザイン農学科	123	—	492
応用生物科学部		3年次	
農芸化学科	150	—	600
醸造科学科	150	—	600
食品安全健康学科	150	—	600
栄養科学科	120	—	480
生命科学部		3年次	
バイオサイエンス学科	150	—	600
分子生命化学科	130	—	520
分子微生物学科	130	—	520
地域環境科学部		3年次	
森林総合科学科	130	—	520
生産環境工学科	130	—	520
造園科学科	130	—	520
地域創成科学科	100	—	400
国際食料情報学部		3年次	
国際農業開発学科	150	—	600
食料環境経済学科	190	—	760
アグリビジネス学科	150	—	600
国際食農科学科	110	—	440
生物産業学部		3年次	
北方圏農学科	91	—	364
海洋水産学科	91	—	364
食香粧化学科	91	—	364
自然資源経営学科	90	—	360
計		2,991	11,964

↑

東京農業大学			
農学部			
農学科	170	3年次	680
動物科学科	140	—	560
生物資源開発学科	125	—	500
デザイン農学科	123	—	492
応用生物科学部		3年次	
農芸化学科	150	—	600
醸造科学科	150	—	600
食品安全健康学科	150	—	600
栄養科学科	120	—	480
生命科学部		3年次	
バイオサイエンス学科	150	—	600
分子生命化学科	130	—	520
分子微生物学科	130	—	520
地域環境科学部		3年次	
森林総合科学科	130	—	520
生産環境工学科	130	—	520
造園科学科	130	—	520
地域創成科学科	100	—	400
国際食料情報学部		3年次	
国際農業開発学科	150	—	600
食料環境経済学科	190	—	760
アグリビジネス学科	150	—	600
国際食農科学科	110	—	440
生物産業学部		3年次	
北方圏農学科	91	—	364
海洋水産学科	91	—	364
食香粧化学科	91	—	364
自然資源経営学科	90	—	360
計		2,991	11,964

東京情報大学			
総合情報学部			
総合情報学科	3年次		
看護学部	400	10	1,620
看護学科	100	-	400
計	500	10	2,020
東京情報大学大学院			
総合情報学研究科			
総合情報学専攻(M)	15	-	30
総合情報学専攻(D)	3	-	9
計	18		39

↑

東京情報大学			
総合情報学部			
総合情報学科	3年次		
看護学部	400	10	1,620
看護学科	100	-	400
計	500	10	2,020
東京情報大学大学院			
総合情報学研究科			
総合情報学専攻(M)	15	-	30
総合情報学専攻(D)	3	-	9
計	18		39

↑